

第84回関西学生対校駅伝競走大会開催のためのガイドライン (新型コロナウイルス感染症予防対策)

1. 感染症対策概要

本大会は、公益財団法人日本陸上競技連盟の「ロードレース再開についてのガイドライン」(第3版改定)〈令和4年1月6日〉、公益財団法人日本バス協会の「バスにおける新型コロナウイルス感染症予防対策ガイドライン」(第6版)〈令和3年11月30日〉、貸切バス旅行連絡会の「貸切バスにおける新型コロナウイルス対応ガイドライン」(第3版)〈令和3年11月22日〉、全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会日本旅館協会全日本ホテル連盟の「宿泊施設における新型コロナウイルス対応ガイドライン」(第2版)〈令和2年11月22日第2版一部改正〉を参考に感染防止対策を定めて実施します。感染症拡大防止のため、大会関係者は本ガイドラインの遵守をお願いします。

2. 基本注意事項

(1) 個人情報の取扱について

【個人情報の取得】

競技運営および感染症予防対策を目的に、出場選手、チーム関係者、競技役員、大会役員、自主整理員(ボランティア)、医療関係者、報道関係者等の氏名、連絡先、健康状態等の個人情報を取得する旨の通知し、その同意を得る。

【個人情報の第三者提供】

保健所・医療機関等の第三者へ情報を提供することの同意を得る。

【個人情報の保管期間】

取得した個人情報は大会終了後1ヶ月間保管し、保管期間を過ぎた後、適正かつ速やかに廃棄を行うとともに、廃棄した証を保管する。(自主整理員:各自治体、その他:本連盟)

(2) 感染症予防対策への同意

- ・大会主催者からの健康状態の確認に応じる。
- ・感染疑い症状の発症、検査(PCR・抗原)での陽性反応、濃厚接触があった場合、大会主催者の対応に応じる。
- ・当日の朝に、37.5℃以上の発熱や風邪症状、ひどい体調不良のある場合、大会への参加、従事を認めない。

(3) 免責事項

- ・大会主催者は出場チーム及びその関係者、競技運営関係者の感染に対するいかなる責任も負わない。

(4) 感染者、濃厚接触者、感染疑い者の参加・従事の可否

【感染者への対応】

大会1週間前(11月12日)から大会開催日までに、検査(PCR・抗原)で陽性反応があった場合以下の対応を行う。

- ①出場選手:当該選手の出場を認めない。
- ②チームスタッフ:会場への入場を認めない。
- ③競技運営関係者:従事を認めない。
- ④報道関係者:会場への入場、取材活動を認めない。

【濃厚接触者への対応】

7日間にわたり健康状態を観察する期間を経過し、症状が出ていない場合は出場、従事を認める。

【感染疑い者への対応】

以下の条件を満たした場合に限り、出場および従事を認める。

①感染症疑い症状の発症後に少なくとも8日が経過している。(発症日を0日として、8日間を指す。)

②薬剤を服薬していない状態で、解熱日・症状消失後に少なくとも3日が経過している。

(解熱日・症状消失日を0日として、3日間を指す。)

※感染疑い症状とは

①息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、高熱、のどの痛み等の強い症状のいずれかがある場合

②重症化しやすい方(高齢者、糖尿病・心不全・呼吸器疾患等の基礎疾患がある方、透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方)で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合

③上記以外の方で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状が4日以上続く場合

(5) その他

①出場チーム関係者、競技役員、大会役員、ボランティアなどが65歳以上の方、基礎疾患を有する方の場合、重症化するリスクが高い旨を認識した上で参加する。

②参加ランナーは競技を行っている時以外はマスクを着用する。

- マスクはウイルスが付着する可能性があるため、各自が持ち帰り破棄する。

- マスク回収のゴミ箱は設置しない。

- 会場に万一マスクが落ちていた場合、使い捨て手袋着用の上、清掃トング等を用い、直接手に触れないことを徹底する。

3. 競技者、参加校の感染症対策について

(1) 基本的な感染症防止対策

- 「3密」の回避を徹底する。

- マスク、ハンドタオルを持参する。

- マスク着用、手洗い、手指消毒、咳エチケットを徹底する。

- 大会開催地域に入る日の自宅(下宿、寮を含む)、大会当日の宿舎にて検温を行う。

- 当日の朝、37.5度以上の発熱者については参加校の責任で直ちに大会開催地域から退去させ、本連盟に報告を行う。

- 京都府新型コロナウイルス緊急連絡サービス(こことろ)を活用する。

- 大学代表者は、入場者全員の体調を確認した証明として「確認書」を提出する。

(2) 大会参加に関する防止対策

【移動】

バスを利用する場合は、以下の点に留意する。

①運行前後に車内を消毒する。

②乗車時は手指消毒を行う。

- ③車内ではマスク着用の上、会話は必要最低限とする。
- ④エアコンを常時外気導入モードに設定し、車内の空気入れ替えを促進する。
- ⑤停車時間帯は、窓を開けて換気を実施し、走行中も一部窓を開けて換気する。

【宿泊】

- 宿泊をする場合は、以下の点に留意する。
- ①可能な限り1部屋の基本的な収容人数より割合を減らして割り振りを行う。
- ②宿泊施設に、従業員のマスク着用及び施設内の手指消毒設備の設置を依頼する。
- ③ロビー、浴場、食堂等、宿泊者が同時に利用する場所の消毒を徹底する。
- ④自室以外でのマスク着用を徹底する。
- ⑤従業員との接触はできるだけ避け、接触する際はソーシャルディスタンスを確保する。
- ⑥緊急連絡サービス「こことろ」の活用を宿泊施設に依頼し、チェックイン時に活用する。
- ⑦入浴は大学ごとにスムーズに利用できるように調整をする。

【中継所】

- 選手、付添は以下の点を遵守する。
- ①レース中やウォーミングアップ中以外は、常時マスクを着用する。
- ②会話は必要最低限に抑える。
- ③付添は、大声で選手に話しかけない。
- ④招集、懇親会の際は、可能な限りソーシャルディスタンスを保つ。
- ⑤スタートエリアにおいてはマスク着用の徹底と会話をしない注意喚起を徹底すること。スタート直前までマスクを着用、外したマスクは選手が管理する。
- ⑥ゴール後は、速やかにマスク着用、手指消毒を行う。

【その他配慮事項】

- 自分が感染症にかかるないようにするとともに、駅伝を開催する丹後地域の方々へ感染症をうつさないために、本大会参加校に、以下の内容を要請する。
- ①3密を避けた行動を心がける。
- ②ミーティングはソーシャルディスタンスをとりながら、換気のできる環境で行う。
- ③大声を出す機会を可能な限り避ける。
- ④大人数での宴会や飲み会等を控える。

4. 大会運営者、報道関係者の感染症対策について

(1) 基本的な感染防止対策

- ・「3密」の回避を徹底する。
- ・マスク、ハンドタオルを持参する。
- ・マスク着用、手洗い、手指消毒、咳エチケットを徹底する。
- ・大会開催1週間前（11月12日）～当日の体温及び健康状況を体調管理チェックシートに記載し、提出する。また、大会後2週間（11月20日～12月4日）の体温及び健康状況を観察する。（競技役員、報道関係者：本連盟、自主整理員：各自治体）

（2）大会従事に関する防止対策

【競技役員】

- ①原則、各個人の車両にて移動する。
- ②現地集合・現地解散とする。
- ③複数人で移動する際、会話は換気を行ったうえで行う。

【学生補助員】

- ①移動（バス、公共交通機関）の際は、極力会話を避けるようする。
- ②37.5度以上の発熱、風邪の症状がある場合には、交代要員を出してもらう。

【自主整理員（ボランティア）】

- ①本連盟の策定したガイドラインの自主整理員（ボランティア）事項の内容を理解、同意してもらったうえで地元自治体に募集を行ってもらう。
- ②37.5度以上の発熱や風邪の症状がある場合は、当日の集合時間までに統括する責任者へ連絡し、欠席する旨を伝えてもらう。
- ③現地集合・現地解散とする。
- ④業務終了後、帰宅した際には、手洗い、手指消毒を行う。
- ⑤自主整理員に感染症患者が出た場合に、直ちに報告を受けることができる体制を自治体の担当者と構築する。

【報道関係者】

- ①本連盟HPに事前に掲載する申請内容を遵守したうえで取材を行う。
- ②体調管理チェックシートの提出がない場合は、取材を認めない。
- ③取材方法、取材人数、取材エリア等、主催者の指示に従う。なお、密になることが予想される場合、申請場所で取材を行えないことがある。

5. 大会主催者の感染症予防対策について

（1）会場計画

【給水】

- ①競技開始前に手指消毒を行い、マスク、フェイスシールド、手袋を着用する。
- ②スポンジは使用しない。
- ③手渡しでの提供を行わない。
- ④ランナー間での回し飲みを認めない。

【トイレ】

- ①感染症防止の貼り紙を貼付する。
- ②洋式トイレでは、蓋を閉めた後に流すことを徹底する。
- ③石鹼、消毒液を設置する。

（2）競技運営

【各中継所】

- ①基本事項

- ・競技役員の打ち合わせは、可能であれば書面やメールで行い、事前および当日に行う打ち合わせは、ソーシャルディスタンスを確保したうえで簡潔に済ませるよう努める。
- ・会話は必要最低限に済ませる。
- ・付添と選手が大声で話さないよう注意喚起を行う。
- ・選手及び付添に対し、ソーシャルディスタンスを保つよう促す。
- ・ウォーミングアップ中、レース中以外のマスク着用を促す。
- ・マスクが落ちていた場合には、手袋を着用のうえ、清掃トングを使用するなど、直接手を触れないことを徹底する。

②招集（学生審判）

- ・招集の際は拡声器を使用し、選手が密とならないよう、集合させずに招集を行う。
- ・選手が密とならないように、ソーシャルディスタンスをとりながらアスリートビブスを確認する。

③選手受け止め（学生審判、学生補助員）

- ・マスク、フェイスシールド、手袋を着用のうえ、業務にあたる。
- ・選手の完走後、マスクの着用、手指消毒を促す。

（3）危機管理体制の設置

感染症予防対策の策定およびその意思決定を行う、「丹後大学駅伝新型コロナウイルス感染症対策室」（以下、対策室という）、当該対策室の業務を補佐する対策室分室を設置し、感染症予防対策や感染者、濃厚接触者、感染疑い者がいた際の対応を連携してあたる。

①対策室の構成員は、本連盟会長、北丹陸協会長および、関西学連医師を委員とし、対策室分室の構成員は本連盟事務局長、北丹陸協理事長、宮津市企画財政部企画課文化スポーツ総括課長、与謝野町教育委員会事務局社会教育課長および、京丹後市教育委員会生涯学習課長とする。

②大会関係者が発熱、風邪の症状がある場合には、前日、当日に関わらず感染症予防の観点から必ず別紙（p. ●参照）の感染症対策室分室の委員に以下の経路で連絡する。

- ・関西学連関係者→本連盟事務局長
- ・競技役員→北丹陸協理事長
- ・行政職員・ボランティア→各市町の担当者→各市町の担当課長

報告内容については、対策室分室の構成員で情報を共有し、本連盟事務局長が統括を行う。なお、大会運営に関わる内容によっては対策委員に報告を行う。

③対策室の委員である本連盟会長、医師、事務局長は大会前日に必要があれば、地元の委員や医療機関と感染症対策を講じた上で打合わせを行う。

6. その他の事項

- ・競技終了後、全ての箇所（机、椅子、パソコン等）で清掃、消毒を行う。
- ・参加者は大会後、症状が4日以上続く場合は、必ず最寄りの自治体の衛生部局と大会主催者に報告する。
- ・招集所等のごみ箱は使用不可とし、ごみは各自ビニール袋に入れて持ち帰る。
- ・嘔吐物は個人防護服を着用した者が対応し、消毒を行う。
- ・リザルトは掲示せず、本連盟HPに掲載する。

- ・国及び京都府に「緊急事態措置」等が発令された場合は、協議を行ったうえで大会開催の判断を行う。
- ・怪我、病気の応急措置については検温を再度した上で医師、看護師等医療従事者が対応するが、急病による発熱と感染症による発熱の区別がつかない場合には別途その場にいる医療従事者と相談して対応を行う。
- ・第84回関西学生対校駅伝競走大会にあたり、本ガイドラインを感染症関連部署（保健所、コロナ受入院、消防署）に事前に送付し、必要に応じて説明、相談、助言をあおぐ。